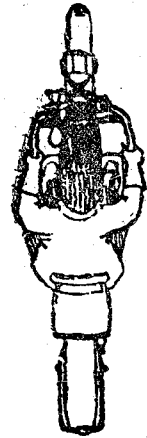


# 通信

## ◎東京だより



田中 生

肅啓、大寒に入りてよりの寒威射を切るやうに被感バラツクに生活する帝都大部分の都民は耐寒に是れ悩み居候。

區劃整理事業が豫定の如く進捗致居候は、幾分にては此惱より脱することを得る次第に候得共、都民が我利を主張し共同一致の念に乏しき爲に折角の事業も其の進捗を妨げられ防寒の苦も自ら招きたるものと可申候。

此寒さを外にして休會明けの帝國議會は二十一日より新築バラツクに於て再開致居候、之に先ち開かれたる各政黨

の大會は此期議會に於ける對策を決定するものにして、此期議會が解散の運命に陥るや否やは此宣言に依つて豫測することを得る筋合に有之、殊に政憲兩黨の間に介在して議會の形勢を左右する地位を占むる政友本黨の態度こそ吾人の重視したる處に有之候、然るに政友會の聲明は露骨に政府に反對するに反し、本黨の對政府態度は著しく曖昧なるのみならず在野友黨たる政友會に對し攻撃的態度に出たることは這般兩黨間に結ばれたる協約を暗々裡に破棄したる

感有之候、床次總裁の言ふ所は主義政策の相違に依りて反對黨と相争ふは憲政の眞諦なるも、在野黨なるが故に政府の倒壊を以て本能とし、政府に挑戦することを喜ぶが如きは政黨墮落の現象なりとし黨略を以て政府に對すべきに非ざることを申居候、固より協約を破棄するの不徳を今の政治家に責むるは或は困難なる義と被存候得共、此聲明を一面より視るときは聊もすれば政府彈劾案を提出せむとする政友會の態度を諷して、共同行動に出てざることを暗示し他面憲政會と雖主義政策に付一致するに於ては、政友會との協定を顧慮することなく相共に行動すべきを言ひたるものにして在野黨の關係此くなる以上は從來に於けるが如く遮二無二政府を彈劾することも無之に付假令小競合はありとするも、突發事件の起らざる以上は無難に閉會すべき義と被察候。

帝國議會に於ては例に依り首相の施政方針を始め外藏兩相の演説と型の如く議事を進め居り候、首相は聯盟各國との交際より説き起して露國支那との親善關係に及び支那の

出兵が帝國の權利々益を擁護する爲に我滿洲駐劄師團の補充を爲したることを述べ、衆議院議員選舉法の改正に伴ひ地方制度に於ける議員選舉の改正を行つて地方自治の進展を期し國民の政治上享有すべき、權利の擴張を測り、國民の經濟的社會的生活の充實安定を期するが爲に生産の増加貿易の發展に關し畫策したるの外一面健康保險の實施、勞働組合法、勞働爭議調停法を立て勞働問題の解決に力め、稅制の整理を速行するが爲歳入に著しき増減を來さざる程度に於て國稅の全體に亘る大改正を行ひ、尙進んで地方稅制の根本的改正を爲し國民負擔の均衡を圖りたることを縷述し、政府の採用したる行政整理財政の緊縮政策は多少の成績を挙げ經濟界轉換の時期に到達したるを喜び、今のとき放漫の政策を爲さば九仞の功を一篋に缺く虞あるを以て依然として緊縮の方針を繼續する旨を聲明致候。

首相の演説は其の量に於て多きを占め其の言ふ所も亦批難の餘地無之候得共、其の質に於て首相の所見が國民の所望なるやは疑問に有之、支那出兵の如きは前號に於て申述

候通り我國政府の適當なる措置として賞揚するに吝ならざるものに有之、選舉法の改正も亦機宜に適したる立法と可申候得共、税制の整理に關しては首相の得意らしき聲明を聞く程のものか疑はれ申候、蓋し首相の所謂歲入に著しき増減を來さざる程度に於て爲したることは一面其の不徹底を物語るものに非ざるかと被存候、之と所見を異にする政

友會案が在野有士の好評を博しつゝあるに鑑るときは政友會が、最も力を入れて論争し其の是非を國民に判斷せしむる最重要點と被考候、反之國民の經濟的社會的生活の充實を圖りたることは政友會の産業立國政策と同一にして吾人も亦此政策の採用を謳歌する所に御座候得共、然らば明年度豫算に政府の此の政策が表現したるかと申候は、吾人は不幸之を見出す能はずして其の聲明と事實との相違を發見可致候、勞働法規を制定することは時勢の要求に應ずるものにして結構に候得共社會局原案が無理解なる一部階級者の爲に多大の修正を受けたる趣にして吾人の頗る遺憾とする所、併しながら兎角の批難あるにせよ之を制定する迄に

漕ぎ附けたるは現内閣の効績と言ふも過言に無之、是に依つて勞資間に於ける富の分配を公平にし無用の爭議を解決し得たらむには我産業上に於ける一大進歩と可申候。

首相藏相の演説に依るときは積極的に從來の緊縮政策を緩和するに言及致さず候得共、經濟界の轉換を理由として將來何物かを劃策せむとする口吻を窺知するを得申候、消極政策の實行が一部階級者に歡迎せらるゝは當然に候得共、在野二黨が積極政策を高調して之を攻撃し殊に本黨が政策本位に始終するの聲明に考慮し、地方黨員の此機不可逸とする積極策の要求に鑑るときは何時迄も消極主義を保持するを許さず從來の聲明と黨情との板挟みに悩みたる結果と存候、彼の鐵道敷設に付數年後に着手すべき事業を今俄に鐵道會議に諮問したるが如きは其の一端を示すものにして吾人の評論を裏書するものと可申候、由來現内閣は從來の聲明と其の爲さむとする事との辻褄を合さむ爲に焦慮し餘りに從來の聲明に捉はるゝ嫌有之候、固より在野當時爲したる聲明を弊履の如く捨つる如きは吾人の贊せざる所に

候得共國策は時代の趨勢に順應したるものなることを要するを以て其の聲明を變更する當然に有之候に付、今一步積極的態度に出て産業の進展を期するに非ざれば國民の多數は遂に在野黨に走る明かなる義と存候。

筆茲に至るのとき加藤首相薨去の訃報を耳にし其の眞否を疑ひしも悲しき報道は事實と爲りしこと國家の爲寔に痛嘆に堪へざる所に有之、人生の果敢なき頼むべからざるを今更の如くに痛感致候、吾人は臨時首相代理の任命を觀たるときも首相が連日の疲勞と輕微なる風邪の爲に登院を差控へたる結果として、其の責任を明確ならしむる爲に採りたる措置とし餘り重きを措かざりしに、事茲に至り痛嘆再びするものに御座候、在野十年の久しき其の經綸を行はむとするも得ず會々機を得て爲すあらむとせば宵蒼還年を授けず人生の痛恨已むべからざるもの可有之、其の施設に關しては假令國民の總てに歡迎せられざりしとするも、堅實なる基礎の下に飛躍せむとし、彼の最大難問視せられたる税制整理を論議すべき數日前卒然として逝く、國家の損失

尠少に非ざるべく、吾人國民は謹で哀悼の意を表せざるべからず候。

加藤首相の薨去に依り早くも政界の不安を傳へ、政權が在野黨に移るべきことを申居候得共、在野二黨何れも議會に於て多數を占むるものに無之候に付、首相の薨去に關係なく憲政會に基礎したる内閣の持續すべきは當然に有之、歴史が繰返さるるものとせば、曩年原敬氏横死の場合に於ける後繼内閣の組織と同様に世上憲政會の副總理と目すべき若槻氏に組閣の大命降下すべきは勿論の事と被存、吾人は亦此くあらむことを切望するものに御座候、唯だ何となき氣の毒の感に堪へざるは喧嘩分れを爲したる在野二黨の一部野心家の心事に有之、事を想ふて行動し提携の實を擧げ居たらむには政權我黨に販するものと後悔したるに相違無之候得共、既に放たれたる矢は落ち付く所にまで行くべくして今更如何とも爲す能はず自ら招きたる疵、自負の外なく吾人の笑殺する所に有之、言ふべき多くを紙數に制限され是にて擱筆致候

敬具